

Iowa 今昔

防 府 船津 直彦

5月の連休に平日の外来を休診し、35年ぶりにかつて Research Fellow で滞在したアメリカ合衆国 Iowa 州 Iowa City と University of Iowa を訪問しました。

Iowa は日本でさほど有名でなく、ニュースになるのはアメリカ合衆国大統領選挙時全米で1番最初に予備選が行われる州、今回も州都の Des Moines からの特派員報告があったくらいで、あとは養豚と豚の餌のためのトウモロコシ畑がひろがるだけ。トウモロコシ畑は映画 Field of Dreams の舞台、マディソン郡の橋も Iowa だった、くらい。

さて、わが家族の道中だが、貯めたマイルージをふんだんに使いました。マイルージはタダと思ってましたら、税金がそれぞれの国でかかりました。山口宇部空港のカウンターでは、ANA → United の発券ができず、娘はアメリカにいけないと泣きべそ状態になってしまいました。スターアライアンスでも航空券(今は e-Ticket 化してて、30年前の赤カーボンチケットは皆無)発券は宇部の田舎ではできないのかと思いました。JAL も宇部のカウンターでは、わかりませんと、東京からロサンジェルスと電話相談していた。宇部から海外のめったに日本人が行かないような空港に行く場合は、とにかく羽田(もしくは出国する空港)に行き、手続きすべきと思いました。

パスポートも電子化されており、出国手続きはカウンターの上にパスポートをおいてカメラを見つめると審査終わり。以前半券をパスポートにホチキス付けした出入国カードは、航空会社カウンターのお姉さんに E/D カードは?と聞いたら「?」という顔をされた。電子化されているからないんだ。日本でも相当電子化されており、出入国の

ハンコもなし、希望すれば帰国時は押印するレーンがあったと記憶します。ただ私は手続きしていなかったの、帰国時の税関の申請書は手書きカードのままでした。

最初のアメリカ入国地がロサンジェルスで、入国審査が長蛇でした。飛行機を降りて、審査官のブースに入るまで約2時間かかりました。折れ曲がった列に並ぶのですが、ラグビーセブンズの大会でもあるのか、桜のジャージと西サモアのグループと何十回と顔を合わせました。私の乗り継ぎ便は6時間後ですから、なすがまま状態です。タイトな乗り継ぎ便を予定されたら注意してください。入国審査はかなり厳しかった。まず、指紋を登録、それから質問攻め。最後に cash はいくらもってるか? クレジットカード全盛と聞いていたから外貨は40ドルしかないが、見せろとまでは聞かれず、入国できました。家族はシカゴから入国しましたが、割とすんなりだったようです。私もこれまでサンフランシスコかシカゴで入国しましたが、今回ほどではありませんでした(人生最初のシカゴでは入国後、後ろの見も知らぬ日本女性に英語が通じんからおまえ手伝え、と審査官。私だって上手な聞く耳もってないのに呼び止められたことを思い出しました)。当代の大統領の政策なのか、ロサンジェルスという地域なのか、かなり厳しかったです。

35年ぶりの Iowa、トウモロコシ畑真ん中のイースタンアイオワ空港と名称変更、ターミナル規模も倍以上に拡張していました。滑走路は昔と同じく1本ですし、シカゴ以外はデンバーの直行便のみと、行き先は増えず、便数のみ増えたようです。保安検査の規模が大きくなっていて、宇部のようにゲートを通るだけでなく靴はスニーカー

でさえ脱いで、両手を上げて立って CT 検査を受けるような金属探知です。足の置く位置がマークしてありますが、足の短い日本人には届かず広げるだけで必死です。私はどこでもひっきり、ボディチェックを受けましたが、背骨に固定のチタンが入っているためか、と思いました。飲料水も日本と逆で蓋を開けた形跡がないと、没収。娘はレモネードが美味しいと空港で買ったのですが、日本の感覚で蓋を開けず持ち込んだら、捨てさせられまた泣きべそ。一口でも飲んでいたら OK。日本でも最近の水筒等一口飲めと言われることがあります、全く逆と覚えてください。

空港でのレンタカーは、簡単さはいつもびっくりします。保険は full cover といったら特上客様でハイ、カギ、で parking lot 何番にあるから乗っていけ、返却時もガステーションの領収書を見るでなくハイで終わり。日本なら係員が車のチェックを、と小さな傷まで確認することを考えると、日本のレンタカーは使いたくないです。Iowa の田舎だからでしょうか、30 年前家内が交差点で自転車のお兄さんとぶつかった時は、OK!OK! と行ってしまった。事故のうちに入らないのでしょうか。

Iowa City のホテルは私たちが住んでいたアパートの隣、35 年前は沼沢で鬱蒼とした藪だったところ。アパート自体はあります。外装がかつてはさび止めの様な赤茶けた色でしたが、今は灰色に塗り替えてありました（写真 1、家内の帽子のてっぺんの窓がかつてすんでいた部屋）。



写真 1

大学病院もテニスコートだった所に子供病院が移設されてました。アメリカの富豪の豪毅な所は、公共施設にポンと寄付することです。私がいた病院も J.Colloton pavilion と大口寄付者の名前がついた建物です。Reserch で過ごした建物は Eckstein medical reserch building でやはり Eckstein という富豪が寄付したらしいが、竣工が 1923 年ですから詳しくはわかりません。山口大学病院は私の学生時代の建物はわずかにありますが、基本 built & scrap で古い建物を壊し更地にし、新しい建物を建てる、でしょうが、Iowa の場合土地が余っているのか、scrap がありません。強いて言えばテニスコートがどっかにいってしまった（帰国して調べますと下記ゴルフ場の先のトウモロコシ畑に Tennis complex と広く立派になってました）。35 年前、私のボスの研究室があった建物も昔は小児科病棟だったのをリニューアルしたのですが、今回はさすがに新しくなっていました。拡張して内装を変えて入居しています、といってもアメリカは部屋割りして白いペンキを塗るだけでできてしまいます。35 年前の建物地図がそのまま使えるので、裏口の階段等使っていたら、家族はお父さん、記憶力すごいと感心していましたが、University of Iowa の HP にきれいな鳥瞰図がありますが、著作権がありましようから、引用しません。

娘は敷地が広い、とびっくりしましたが、University of Iowa の場合、まず道があって、民家が建つように大学の建物が建っています。だから塀でかこまれた University of Iowa の敷地があるわけでない、説明しても日本の塀で囲まれた大学の発想から転換できないようでした。学生や誰でも利用できる大学会館にカフェテリアもありますが、ちょうど試験前でしょう、PC 片手にあちこちで勉強している姿をみて、日本の女子学生なら群れでわいわいしゃべるのがオチ、と感心してました。みんな歩くのが速い、キャーキャー話しながら歩く女子学生にはあわず、典型的日本の JD 娘にはカルチャーショックのようでした。

Iowa City の down town は Old Capital Center といって JCPenny,Youngers というデパート、本屋、靴屋、レコード屋がありましたが、全て撤

退、廃業。唯一家内がおやつで楽しんでいた屋台クッキー屋はありましたが、値段はなんと5倍でした。2008年の洪水とコロナ禍だそうです。シャッター街にならず空き店舗はほぼ全部飲食店が新たに開店してました。35年前と同じなのは、近くに Airliner という学生が集まり、私のボスもお気に入りの店が残っていただけ。人口7万人のうち5万人が学生と大学関係者の町ですから、コロナの直撃をモロに受けたと思います。店の支払いは全てクレジットカード、びっくりしたのはコインパーキングも現金だけでなくカードの読み取り装置がついていたこと。結局入国審査時に申告した40ドルは全く使いませんでした（ほんというホテルのチップを払いませんでしたからごめんなさい）。ただ、呆然としたのは、クレジットカードが2度目から使えなかったことです。JCBはちょっと、と聞いていたので、VISAとマスターを持って行きましたが、ゴルフ場で使えない、と言われました。帰国後調べましたら、アメリカの有名でないゴルフ場やレストランでの使用は、クレジット会社のセキュリティが働いて不正使用か？と、それで使用停止となったようです。スマホに確認の電話がくるのですが（3D認識とか）、+81がついていないため、私のスマホに懸電なかった。旅行にクレジットカードは必須ですので、海外に行く際は、クレジット会社にその旨連絡を、と忠告をうけました。クレジットカード会社HPからはだめで、必ず電話で。

目的の1つの大学附属ゴルフ場で楽しみました。アパートから歩いて10分で、Finkbine golf course といい、かつてはPGA 下部クラスの試合

をやっていた。在籍中は、職員価格（8ドル）で毎週土日（といっても寒くてオープンは4月～11月ですが）誰かに行ってましたが、家族が今回行きたいとのことでマイクラブを日本から抱えていきました。例のアップグレードで荷物は2個までタダ、が使えました。アメリカのゴルフは健康志向スポーツです。かつて70代の高齢女性と一緒にスタートしたら、3ホール目くらいで今日はここまで、といって帰ってしまいました。何か悪いことしたかな、と思いましたが、夕方の散歩のような感覚でした。ゴルフコースは手入れも良く変わっていませんが、未だ以前のように手引きカートのプレイヤーもいますが、カートの使用が始まっていたこと、クラブハウスを建て替え、洒落た社交施設ができてました（図2、3）。図3の写真は、18番ホールで左が35年前、右が今回、家内がどちらも写っています。ついで近くの Amana Golf に行きましたが、誰もいない（平日！）曇り空で前後見渡してもコースの管理作業員だけ。アップダウンの激しいコースで、家族は怖い、銃撃されないだろうか（コースのすぐ脇に民家がありますから、不法侵入と思われえないだろうか、と）とゴルフになりませんでした。上がったらピックアップトラックにキャディバックを積んだおじさんたちがちらほらやってきました。天候をみていたのでしょうか。ビール片手に大音量のBGMを流しながらスタートしていきました。アメリカのパブリックコースはこのような感覚、日本のパチンコ屋と思えば正確かもしれません。帰国後、家族は二度とできない体験をした、と今では懐かしがってますが。



図2



図3

今昔といっても Iowa の町並みは 35 年前とほぼ同じ建物です。病院が拡張したくらい（半端な拡張ではありません、巨大な病院施設ができてます）。デジタル化は凄まじくスマホがないと生活も旅行もしにくいです。職員学生は ID 自体がカードで、決済が全て事足ります。航空券もレンタカーもホテルも領収書はメールです。これが今昔の 1 番の差でした。

家内は 35 年前 2 年滞在しましたが、私のふるさと、と言っています。学生の街で、私たちが上記の学生会館で小津安二郎の東京物語を見て（University of Iowa は芸術で有名で小津作品の再評価を大学でやっていた）夜 10 時頃ひょこひょこ歩いて帰れるくらい安全でした。また行きたい、ゴルフ場も行きたい、と言ってますが、さて。私は睡眠不足で悩み、持って行った睡眠導入剤はジェネリックだからでしょうか、効きがいまいちでした（家族も同意見）。

帰って荷物を整理してますが、国際免許証を返納せねば。よくみると発行者のサインはなんと IMAMURA TAKAKO と。先輩！山口県の公安委員長でしたね（フランス語でなくてよかった、県中、県総時代の思い出のオチつきです）。

